

三八地域における牛白血病対策の成果と課題

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○二俣雅之 川畑清香

牛白血病対策については、個別巡回や勉強会等による啓発により、抗体検査実施農場が年々増加。一方、本病は早期清浄化が困難で、かつ、経済的・労力的負担が伴う等の理由で、検査結果がわかっても清浄化の取組みに着手しない生産者が存在。今回、抗体陽性率（陽性率）や飼養形態に応じて、次の3パターンの対策を考案し、その効果と問題点を検討。①更新による清浄化：陽性率が低い(7.4%)農場では陽性牛を早期に更新し清浄化を達成。清浄性維持のため導入牛の抗体検査を実施し、陽性の場合は速やかにとう汰。②畜舎内分離飼育：牛舎内で通路を挟んだ分離飼育を実施。陽転率が減少したものの(H27:12.5%、H28:4.2%)、繋留場所の不足により一時的に陽性牛と同居した牛が陽転。陽性牛と同居させる場合には仕切りを設置する等の対策が必要。③農場外分離飼育：馬牧場の一部を活用し陰性牛の分離放牧を実施。退牧時の検査で陽転率6.9%。分離前の陽性牛との同居による感染と推察され、検査後の速やかな分離放牧が必要。これらの事例を参考にリーフレットを作成し、抗体検査後の対策を実施していない生産者を個別に巡回し、陽性率や飼養形態に応じた具体的対策を指導。今後も勉強会等を通して事例紹介を行い、地域への普及啓発により対策に取り組む農場の増加に努めたい。